

岩津ねぎだより

令和3年8月4日
岩津ねぎ産地協議会
生産支援チーム

今年は梅雨明け前の多雨により、排水対策が十分でないほ場では湿害による葉先枯れが発生しています。また、べと病や疫病の発生も散見されます。早急に防除を実施し、被害の拡大を防ぎましょう。

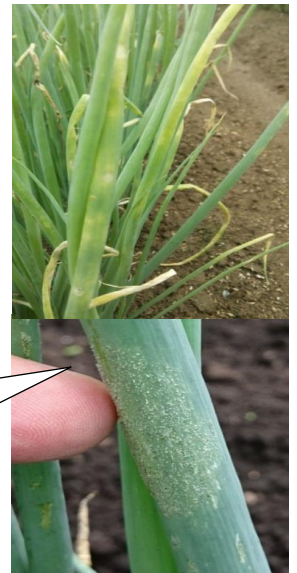
1 ベと病と疫病の発生が多く見られます、早めの防除を実施しましょう

① ベと病（糸状菌）の発生状況と病斑

梅雨の曇天、降雨の影響から、多くのほ場で見られます。

べと病は、土壌中で越冬した病原菌が、葉に寄生してカビの発生が繰り返され、被害が拡大します。連作ほ場で多く発生する傾向があり、病気の発生適温は20℃前後で降雨(多湿)が多いと蔓延します。現在、多発しているほ場では、気温が下がる秋以降さらに発生が懸念されます。

【病斑】葉にぼやけた不整形の退緑色斑点を形成し、多湿時には表面に汚白色のかびを生じる。斑点と健全部の境界線は不明瞭で、症状が進むと折れやすくなり枯れる。



② 疫病（糸状菌）の発生状況と病斑

排水の悪いほ場を中心に、疫病の発生が見られます。

疫病は、梅雨後半から初秋期にかけて、特に夏期に発生しやすくなります。また、水媒伝染するので多雨が発生を助長するほか、多湿は発生に好適のため排水不良地で発生が多くなります。

台風など集中的に雨が降ると激発するので今後も注意が必要です。また、窒素肥料を多用すると発病しやすいので、適正な施肥を行います。

【病斑】葉の中位や葉先に黄白色の不整形な病斑を生じ、病斑部は白く枯れて、罹病部分から葉が折れ曲がり、急速に拡大する。病変部と青白色の健全部分は、明瞭に区別される。



【薬剤例】注意:農薬使用の際は、ラベルの使用基準・注意事項を守って使用しましょう。

| 薬剤名 | 適用病害 | 使用倍率 | 使用時期 | 本剤の使用回数 |
|--------------|-------------|--------|------------|---------|
| リドミルゴールドMZ | べと病 | 1,000倍 | 収穫14日前まで※1 | 3回以内※2 |
| アミスター20フロアブル | べと病、黒斑病、さび病 | 2,000倍 | 収穫3日前まで | 4回以内 |
| プロポーズ顆粒水和剤 | べと病 | 1,000倍 | 収穫14日前まで | 3回以内 |
| テーク水和剤 | べと病、黒斑病、さび病 | 600倍 | 収穫14日前まで | 3回以内※2 |
| アリエッティ水和剤 | 疫病、べと病 | 800倍 | 収穫3日前まで | 3回以内 |

※1 リドミルゴールドMZはR3.4に登録変更で使用時期が「収穫30日前まで」から「収穫14日前まで」に変更されました。

※2 マンゼブを含む農薬「リドミルゴールドMZ」「テーク水和剤」の総使用回数は合わせて3回以内

(R3.7 JPP-NETによる)

2 今すぐに、排水対策を徹底しよう

ほ場周辺の額縁溝が排水口につながっていないほ場では、降雨後、ほ場内に水が溜まっています。(右写真上)

排水対策が十分でないと、根腐れなどの湿害や、軟腐病やネダニなどの病害虫の発生につながります。

今後も局地的な降雨が懸念されますので、右写真下のよう
に、ほ場の周りの額縁溝や条間に浅い溝を設置して、ほ場排水
に努めます。



地上部の調子が悪いときは、地下部も確認してみましょう！



下葉が枯れて元気がありません



掘ってみると根が張っていません



ロビンネダニ

根の付け根部分に寄生して食害する害虫

地上部の調子が悪い時は、地下部に問題(根腐れ、ネダニによる食害等)があるかもしれません。根がしっかり張っているか、白い根が生えているか確認しましょう。

枯れたねぎを抜いてみると小さい生き物が...

3 中耕と土入れ作業を実施し、品質向上を目指そう

梅雨の影響から土が締まり、根に酸素が行きにくい状態となっています。また、雑草の発生も見られます。

ねぎの生育やほ場の状態を見ながら、管理機で条間の中耕作業、株元への軽い土寄せ作業を実施し、根に酸素が行くように努めましょう。



管理機による土入れ作業

4 追肥は慌てずに、2回目の土寄せ時から実施

気温が高い時は、窒素肥料(s604等)を大量に施用すると、根焼けを起こすだけでなく、病害発生を誘発してしまいます。追肥は9月に入ってから行いましょう。

<問合せ窓口> 和田山営農生活センター：672-4800 山東営農生活センター：670-7744
朝来営農生活センター：670-4341 朝来農業改良普及センター：672-6886